

## 2) 採苗試験

### ① 採苗方法

ホンダワラ類の採苗については、天然藻場において、基質を投入する方法、または成熟母藻を基質に結着する方法等いくつかあるが、重量のあるコンクリート製基質を用いる際には、母藻の移植による方法が実用的である。

また基質の水域への設置は母藻の移植と同時に、それ以前のできるだけ短い期間内に行われる必要があり、その期間は約1ヶ月と推察された。

すなわち基質面上には設置後の期日経過とともに微細藻や小型海藻の生育がみられ、これらの伸長とともに浮遊砂の急激な堆積があり、基質面が被覆されることによってホンダワラ胞子の着生と幼芽の生育を妨げるからである（佐和田浜実験漁場における観察例—表—7）。

表—7 設置後の基質上面の着生藻と浮遊砂の堆積

年月日	作業及び観察事項
S 5 2. 1 1. 2 4	基質の設置、砂質帯、高さ70cmと40cmの藻礁
1 1. 2 9	母藻の移植
S 5 3. 1 2 8	藻礁面上黄色くなる。（微細藻、ホンダワラ幼芽？） 浮遊砂なし
2 2 3	ウミウチワ芽長2cm大、葉長7～8mmのホンダワラ 幼芽、約1cm厚さの堆積物（浮遊砂）でおおわれる。

実験漁場：宮古群島、伊良部島—佐和田浜

### ② 幼芽の生育範囲

母藻を集中的に一定域内に投入する移植方法では胞子の到達範囲は投入域からどの範囲まで及ぶのかをみるため、幼芽の生育範囲を観察した。

方法：恩納村前兼久実験漁場に昭和51年10月21日、25日に合計約400kgの母藻を移植し、52年2月8日に幼芽の生育範囲と生育密度を、52年4月18日には葉長約3cm程に生長している藻体の生育範囲を調査した。母藻の採取地は宜野座。

結果と考察：表—8及び図—8に示すとおりである。

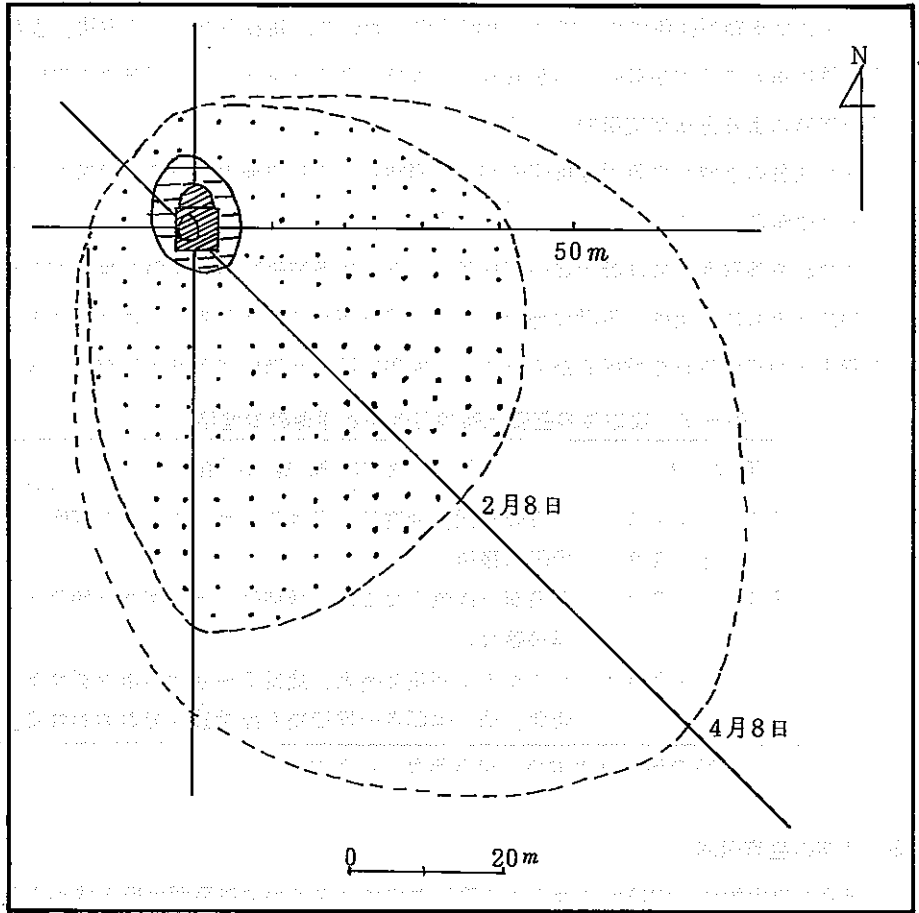


図-8 幼芽の着生範囲



岩礁と保護網



: 100 個体以上 / 建築用 ブロック 1 ケ



: 10 個体 "



: 10 個体未満 "



: 10 個体未満 "